

ゴールドウイングは、40年の間に大なる進化を重ねてまいりました。この非凡なるマシンは、5代にわたってモーターサイクル界のセグメントを創造し、また提案し続けてきました。ここではその歴史を振り返り、エポックメイキングな技術と変遷をご紹介します。

1975年 ゴールドウイング (GL1000) 初代モデル

1972年に開発プロジェクトが発足されてから、過去の延長線上にあるモデルではなく、これまでのモデル全てを白紙に戻したうえで、北米におけるモーターサイクルとは何かを徹底的に追求し、そのモデルの創造に全力を傾けました。1974年に埼玉製作所狭山工場において生産がスタートしました。

1975年にアメリカで発売を開始した初代ゴールドウイングは、ただ単に新しいだけのモーターサイクルではありませんでした。低振動・低重心の革新的な水冷999cc水平対向4気筒エンジンを搭載し、既成概念を超えるモーターサイクルの新たな可能性を開拓しました。世界トップクラスのパワーと大陸横断を可能にする快適性、高性能を備えたハイパフォーマンスマシン。このまったく新しいモーターサイクルを、「一体どのように楽しめばいいのか?」ゴールドウイングのオーナーは、グループとなってロングツーリングへと繰り出しました。この初代モデルにより、ゴールドウイングのコンセプトは長距離ツアラーへと徐々に進化していったのです。



1975年 GOLDWING (GL1000)



1975年 GOLDWING (GL1000) 透視図

1975年 GOLDWING (GL1000) ダミータンク内部

1980年 ゴールドウイング (GL1100) 2代目モデル

Hondaは、ゴールドウイングをアメリカで生産する計画を立て、1980年ゴールドウイング (GL1100) からHonda of America Manufacturing (HAM) での生産を開始しました。単にゴールドウイング (GL1000) の排気量を10%アップしただけではなく綿密に計算されたリファインを加えることで、それまでのロードスポーツカテゴリーから正真正銘のツーリングカテゴリーへと進化を遂げました。新設計1,085ccエンジンはパワーよりもトルクを重視。ホイールベースは延長され、ライダーとパッセンジャーのスペースを拡大させました。最新式のエアアシストサスペンションの導入で、当時としては非常にしなやかで快適な乗り心地を実現しました。



1980年 GOLDWING (GL1100)